

知っておきたいキーワード

キュレーション

近藤敏志†

† パナソニック株式会社

"Curation" by Satoshi Kondo (Panasonic Corporation, Osaka)

キーワード: キュレーション, キュレーター, ソーシャルメディア, 検索

まえがき

ここ1~2年の間に、キュレーションという言葉を目にする機会が多くなって来ました。キュレーションとは新しい形態のネットサービスと考えることができます。ここでは、キュレーションとは何かについて説明し、さらに代表的なサービスについて紹介したいと思います。

キュレーションとは

“キュレーション (Curation) ”は"Curator"を語源としています。CuratorとはOxford Advanced Learner's Dictionaryによると、"A person whose job is to be in charge of the objects or works of art in a museum or art gallery, etc."とあります。すなわち、博物館や美術館などで、展示を企画して作品や作者を選択する担当者のことを指します。IT用語としてのキュレーションは、インターネット上の情報を収集しまとめること、または収集した情報を分類し、つなぎ合わせて新しい価値を持たせて共有すること、とされています¹⁾。

キュレーションの起源

キュレーションの潮流がなぜ生じたかを、インターネット検索の歴史を紐解きながら考えていくことにします。

1990年代にインターネットが普及し始めると、玉石混濁の情報の中からいかに素早く必要とする情報を探し出すか、ということが課題となり、それによりGoogle、Yahooなどが提供するインターネット検索サービスが急速に普及しました。現在、インターネット検索サービスはわれわれの生活には不可欠なものとなっていますが、その一方で、コンピュータプログラムである検索エンジンによるサービスには限界があるのも事実です。個人個人の嗜好

に対する多様性が増している時代の中で、キーワード検索だけでユーザが本当に必要とする質の高い情報を見つけ出すのは、難しくなりつつあると言えるでしょう。

ここで、ユーザの行動という観点から考えてみます。インターネット検索サービスを利用することは、あるアルゴリズムにより検索エンジンが機械的に出した検索結果をユーザがそのまま受け取る、という受動的な行為だと考えることができます。一方、ユーザが能動的に情報発信する仕組みとして、2000年代前半から普及し始めたのがブログです。ブログでもキュレーション的なもの(インターネット上の情報を収集しまとめて発信する)は存在し

ていました。しかしながら、どちらかと言えばブログは日記的な内容が多く、またコンテンツよりも文章が中心であると言えます。また、ブログはコメントは付けられるもののブロガーが一方向的に発信するスタイルが中心で、いわゆるソーシャルなメディアとしてはあまり認識されていないように思えます。ブログ的な機能にさらにソーシャルメディアとしての機能を加え、ユーザが能動的に発信する仕組みとして近年すっかり定着したものが、TwitterやFacebookなどです。TwitterやFacebookなどでは、ユーザが簡単に情報発信でき、かつユーザ同士のつながりを強く意識したプラットフォームを提供していることから、

☞ 共通の興味を持った人々をつなげるメディアとして認識されていると言えます。

さて情報共有という観点から考えると、TwitterやFacebookでの情報共有は、元の情報を発信した人を中心とするある特定のグループに閉じていると言えます。そのグループに属さない他の人が同じ情報を提供していても、グループ間での情報共有は必ずしもなされるわけではありません。

キュレーションはこのような課題を

解決するために生まれたメディアであると言えます。すなわち、情報発信した人を中心とする情報共有ではなく、ある特定のテーマを中心としてそれに関連する情報を集めて整理して発信するというメディアです。また情報を集める段階や整理する段階で、情報を集める人(キュレータ)自身の視点や価値観が加わっているため、同じ視点や価値観を持っている人達にとってより有益な情報となります。

再びインターネット検索という観点

にすると、キュレーションは、これまでの検索エンジンによる機械的な情報収集・整理に対して、人による情報収集・整理が加わったと考えることができます。ソーシャルメディアで視点や価値観の似た人達がつながりを持ち、その視点や価値観が似た人によるフィルタ(情報収集・整理)が加わって、より価値の高い情報を見つけることができるようになったと言えます。

キュレーションサービスの代表例

キュレーションは、その定義を聞くよりも実例を見ていただいた方が理解しやすいかと思しますので、以下で代表的なキュレーションサービスを紹介したいと思います。なお、著作権上の問題で、本稿で各サービスのwebページ画像を載せることはできませんが、URLを記載しておきますので、気になったサービスがありましたら、是非ご自身で確認してみてください。

・NAVERまとめ

<http://matome.naver.jp/>

日本発のサービスで、ユーザが特定の話題に対するインターネット上の情報を集めて、つなぎ合わせて、一つのページに表示できるサービスです。特定のニュースが話題になっている場合には、ニュースサイトへのリンクとリンク先に掲載されている代表的な文や写真が多数掲載されていることが多いです。また、特定の商品が話題になっている場合には、購入サイトの情報の

みならず、その商品に対するTwitterでのつぶやきもまとめられていることが多いです。

・Storify

<http://storify.com/>

NAVERまとめと同様のサービスです。Twitter, Facebook, Flickr, YouTube, Google, RSSの中から好きなコンテンツをドラッグ&ドロップして並べて、必要に応じてテキストを挿入し、簡単にまとめページを作成することができます。本サービスは、アメリカのジャーナリズムの分野におけるデジタル・メディアを活用した創造的な取組みを表彰するナイト・パトロン賞で、2011年度の最優秀賞に選ばれました。

・togetter

<http://togetter.com/>

日本発のサービスで、Twitterのつぶやきに特化したキュレーションサービスです。Twitter上のつぶやきを選択し、任意の順序に並び替えることによって、複数のつぶやきをまとめて表示することができます。これにより、

特定の話題に関するつぶやきをまとめて表示する、イベントの実況報告を抜き出す、などの使い方がされています。

・Pinterest

<http://pinterest.com/>

画像(静止画、動画)をメインとしたキュレーションサービスです。カテゴリ分けしたボードに対して、自分で撮影した画像、Pinterest内の画像、他のサイトの画像を貼り付けていきます。ボードがカテゴリ分けされているため、キュレーションサービスとして位置づけられているようです。

・Pearltrees

<http://www.pearltrees.com/>

フランス発のサービスで、パールと呼ばれる一つの単位にウェブページ、ノート、写真を登録し、パール同士を繋げることによって情報の関連付けを行うキュレーションサービスです。他のキュレーションサービスがリスト的に整理されているとは異なり、木構造で整理されており見た目にも楽しめるデザインとなっています。

むすび

キュレーションについて、その語源や起源、サービス例について紹介しました。

キュレーションについては、いくつか書籍も出されています²⁾³⁾、さらに詳しいことをお知りになりたい方は、そちらも参照して下さい。

(2013年6月24日受付)

参考文献

- 1) コトバンク, <http://kotobank.jp>
- 2) スティーブン・ローゼンバウム: “キュレーション”, プレジデント社 (2011)
- 3) 佐々木俊尚: “キュレーションの時代”, 筑摩書房 (2011)



近藤 敏志

1992年、大阪府立大学大学院工学研究科修士課程修了。同年、松下電器産業(株)(現 パナソニック(株))入社。主に画像符号化、画像信号処理に関する研究開発に従事。IEEE1394 TA, ISO/IEC MPEG, DICOMにおける国際標準化活動にも参画。工学博士。